

第1学年 国語科学習指導案

指導者 新宮 千恵美

1 単元名 のりものることをしらべよう

2 言語活動とその特徴

本単元では、「1ねん*くみのりものカルタをつくろう」という言語活動を、単元を通して位置付けた。乗り物の図鑑から得た情報をもとに、学習した基本文型や順序を使って説明の文を書き、カルタの読み札にする。そして、取り札には絵を入れていく。このことで「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 教材観

本教材「いろいろなふね」は、特徴的な機能を持ったいろいろな船の役目と構造を関連付けて考えられるように書かれている。それぞれの事例が同じ文章構成、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えるのに適した教材である。更にこの構成や文型を生かして、自分の表現につなげる活動へと発展させていくことも可能である。児童は、書かれている事柄の順序を考えながら教材文の内容の大体を読み取るとともに、説明文の分かりやすい順序や基本文型の使い方を学習することができる。また、児童の興味・関心が高い題材が取り上げられており、「自ら学びたい」という主体的な思いをもって活動することができる。

この時期の児童は、読書に広がりを見せ始め、文学作品だけでなく、科学的な絵本や読み物など説明的な文章の本を読もうとする傾向にある。このような時に、いろいろな乗り物について本で調べる活動を通して、読む目的を意識して本を選び、内容を正確に読み取る力につけることは大切であると考える。

(2) 児童観

本学級の児童に対して行った、順序を考えながら内容を読み取る力をみる実態調査（平成*年*月*日実施、第1学年*組*人）において、順序を正しく並び替える問題ができる児童は*人であった。また、説明的文章の内容を正しく読み取ることができた児童は*人であった。読み取ることができなかつた児童のうち*人は、設問と関係のある段落の箇所は分かっているが正しく抜き出すことができていなかつた。また残りの*人は、設問に関係ない別の段落から抜き出して答えていた。これは、入学して4ヶ月で説明的文章を読む経験が少ないと想していると考へる。このような実態から、順序を考えながら内容を読み取るための手立てが必要であると考える。

(3) 指導観

指導にあたって、「1ねん*くみのりものカルタをつくろう」を単元を貫く言語活動とし、本教材「いろいろなふね」を学習する。まず第一次として、教師が作った乗り物カルタを提示し、並行読書の時間で選んだ乗り物について説明する文を書いてカルタの読み札にすることを伝え、学習の見通しをもたせる。次に第二次として、「いろいろなふね」を読み、構成の順序や基本文型に着目して内容を読み取る活動を行う。その際、段落カードを並び替えて事例同士を比較したり、サイドラインを引いたりする活動を通して順序の特徴を見付けながら内容を読み取れるようになる。また第二次のまとめとして、文章全体の構成に対して簡単な検討を行い、説明の文を書く際にどのような順序で文章を構成していくかを確認していく。最後に第三次として、本から抜き出した情報を基に、乗り物の説明の文を書く活動を行う。その際、「文章構成シート」を使い、第二次で学んだ順序の特徴や基本文型を使って書くことができるようになる。その文を読み札にし、乗り物の絵を取り札にする。それを学級で一つにまとめ、カルタ大会を開くことで、相手意識・目的意識をはっきりもって主体的に活動できるようにしていきたい。

4 単元の目標

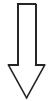
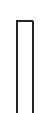
○乗り物に興味をもって説明文を読んだり、好きな乗り物について調べてカルタを作ったりしようとする。
(関心・意欲・態度)

- 本から読み取った乗り物の特徴を、順序よく基本文型を使って分かりやすく書くことができる。
 (書くこと)
- 順序に気を付けて読み、書かれている内容を正しく読み取ることができる。
 (読むこと)
- 主語と述語との関係に注意して文章を読むことができる。
 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
いろいろな乗り物の役目や構造に興味をもち、好きな乗り物についてカルタを進んで作ろうとしている。	本から読み取った乗り物の特徴を、「役目・つくり・できること」の順序で、基本文型を使って書いている。	それぞれの乗り物について順序や基本文型に着目して読み、内容を正しく読み取っている。	教材文に出てくる言葉の意味を理解し主語と述語との照応関係に注意して文章を読んでいる。

6 単元の指導計画

次 時	学習活動	評価規準	並行読書(朝自習)
一 1	「1ねん*くみのりものカルタ」を作るための学習の見通しをもつ。	乗り物カルタを作るという目的意識をもち教材文を読み取る活動に意欲的に取り組もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度]	自分がカルタにしたい本を選ぶ。 
	本文を四つのまとまりに分け、内容の大体をつかむ。	船に対して興味をもち、説明文を読もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度]	
二 3	客船の役目や装備を読み取る。	それぞれの船が「①役目②つくり③できること」という同じ順序で説明してあるという特徴を考えながら、内容を読み取っている。 [読む能力]	役目や装備が書かれている部分を見付けながら読む。 
	フェリーボートの説明の順序を考える。	基本文型に着目しながら、内容を読み取っている。 [読む能力]	
	既習の説明の仕方を生かして、漁船と消防艇の説明の順序を考える。	主語と述語の照応関係に注意しながら、文章を書いている。 [言語についての知識・理解・技能]	
	全体の文章構成や基本文型を確認する。	構成の順序と、説明に使われている基本文型を理解している。 [読む能力]	
三 7 8	「1ねん*くみのりものカルタ」を作る。	既習の説明の順序や基本文型の使い方を生かし、乗り物カルタを作っている。 [読む能力]	構成の順序や基本文型を使ってカルタにできるか考えながら読む。 
		本から読み取った乗り物の特徴を、「役目・つくり・できること」の順序で基本文型を使って書いている。 [書く能力]	
	「のりもののカルタ大会」を行う。	友達が書いた文章を読み合い、良いところを見付けて感想を伝え合っている。 [書く能力]	

7 本時の学習

(1) 目標

客船、フェリーボートの説明が「①役目②つくり③できること」の順序で書かれていることを手がかりに、段落カードを並び替えながら、漁船と消防艇の説明の仕方を読み取ることができる。

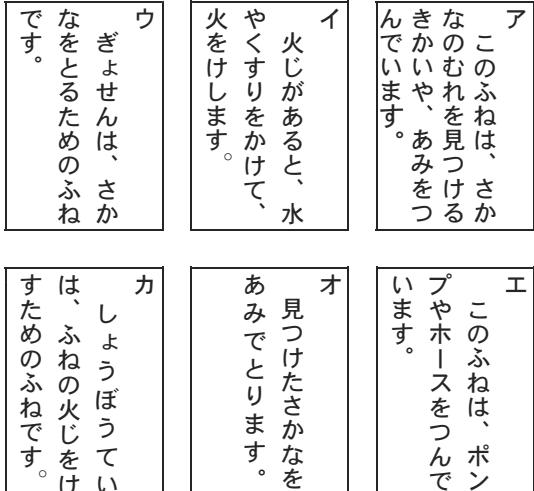
(2) 準備・資料

漁船・消防艇の写真、段落カード、ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価(◎個への対応)
1 本時の学習課題をつかむ。 なったことをつかって、ぎょせんとしょうぼうていのせつめいのじゅんじょをかんがえよう。	・前時の学習を振り返り、客船とフェリーが同じ順序で書かれていたことを想起させる。 ・漁船と消防艇の写真を見せ、知っていることを発表し合うことで、学習への関心を高めて本時の学習に入っていくようにする。

- 2 段落カードを順序よく並び替える。
- ①6枚の段落カードを、漁船と消防艇に分ける。
 - ②既習の説明の順序を使って、カードを並び替える。
 - ③手がかりにした言葉に、サイドラインを引く。



- 3 並び替えた段落カードを発表し、全体で話し合う。

- ・ウは、「なんのために」が書いてあって、「役目」だからはじめにくるよ。
- ・アは、「ついているもの」が書いてあって「つくり」だから2番目だね。
- ・オは、「なにができるか」が書いてあって「できること」だから3番目だね。
- ・ウとカは、どちらも「～のためのふねです。」を使っているよ。

- 4 漁船と消防艇の「すごいところ」を見付ける。

- ・機械で魚がいるところを見付けられるのがすごいと思いました。
- ・消防艇には、遠くの船の火事も消せるように大きなポンプやホースがついているのがすごいな。

- 5 本時の学習を振り返り、次時の活動について知る。

- ・漁船と消防艇も同じように、「①役目②つくり③できること」の順序で書かれているね。
- ・「役目」には、四つの船とも「～のためのふねです。」って言葉が使われているな。
- ・「つくり」には、「～をつんでいます。」って言葉が使われているよ。

- ・まずは、段落カードを漁船と消防艇に分けてから考えるよう助言する。
- ・漁船と消防艇が縦に並べて比較できるようなワークシートを使い、そこに段落カードを置きながら並べるようにする。
- ⑤並び替えでつまずいている児童には、前時の掲示物を振り返って「①役目②つくり③できること」の順序で並べるとよいことを助言する。
- ⑥並び替えが終わった児童には、どのような言葉を手がかりにして並び替えたのか、サイドラインを引くように促す。
- ・サイドラインを引くことで、「～のためのふねです。」「～をつんでいます。」の基本文型に気付くことができるようにならう。

(評) 順序や基本文型を読み取りながら、段落カードを並び替えている。

[読む能力] (段落カード)

- ・なぜこのような順序で並べたのか、きちんと理由付けをしながら発表するよう促す。
- ⑦理由を付けて言えない児童には、聞き返しながら言葉を拾って理由付けができるようにする。
- ・漁船や消防艇の写真を使いながら、「つくり」の文にある装備はどこに付いているのか確認していく。
- ・手がかりになった言葉を発表することで、二つの船の説明で基本文型が共通していることに気付くことができるようになる。
- ⑧思い付いた児童には、「すごいぞカード」を黒板に貼るよう促し、思い付かない児童への支援にしたい。
- ・ワークシートに、「漁船（消防艇）の～するところがすごいと思いました。」という文型で「すごいところ」を書くよう助言する。
- ・ペアで「すごいところ」を発表し合い、互いの考えを交流できるようにする。
- ・四つの船が全部同じ順序で書かれていることを確認し、「乗り物カルタ」を作るときにもこの順序を使っていけばよいことを確認する。
- ・次時は、文章全体の構成や基本文型をまとめ、「乗り物カルタ」を作る準備をすることを伝え、目的意識と見通しをもって学習に臨めるようにする。